再開を

良吉

けで、残りの半分は手つかずのまま残っているのでこの発掘に早急に着手すべきだと力説された。

しかも、発掘は従来のような市費による発掘は市の財政負担が重すぎるので、ボランティア発掘にすべき

野県野尻湖の湖底遺跡からナウマン象の骨などの発掘に成功した前例がある。

〝火焔型土器を掘ろう〟というキャッチフレーズで、考古学ファンに呼びかければ考古学界の大きな話題になり、笹山遺跡を全国に売り出す絶好の情報発信の機会になる。

市の観光事業の目玉になり、国宝火焔型土器を売り出す経済効果も大きいと思う。

更に一言つけ加えるならば、発掘計画の立案に当

「えちごなないろ」の商品をかかげるネオ昭和・村山社

明社長・市内伊達）では、新しいからむし・きものブランド「えちごなないろ」を開発し、昨年4月から本格的に発売に乗り出した。

「えちごなないろ」は、からむし系を同社が提供し、織り生地を市内根啓織物㈱、手描き友禅を市内染織作家・庭野政義氏、デザインとカラーは、上越市カラーコンサルタント宮崎朋子氏が、それぞれ担当。従来にない新しい商品開発に取り組んできた。

同社では一昨年11月20日～22日に京都市で開催された「染織のための全国自然素材展」に試作品を出品したところ予想以上の反応があったことから、自信を深め、取引先のブティックや専門学校、高級呉服店で、プロのカラーコンサルタント宮崎朋子氏が、肌をより美しく、生き生きと見える色を選定し、豊富なコーディネートが楽しめるという画期的な企画を展開することになった。「えちごなないろ」は宮崎朋子氏の考案によるもので、藍色、櫻色、夕映、美野里色、杉山、稲穂、時色の7色で構成されている。